

— 目 次 —

(事務局) 昨年11月30日、12月1日に第61回地域漁業学会大会が長崎大学にて開催されました。本号は大会の内容を特集しております。

1. 第61回大会に参加して
 - 1) 行平真也 会員
 - 2) 真次一満 会員
2. 学会賞選考結果のお知らせ
3. 新理事・監事の選出
4. メール登録、会費納入のお願い
5. 次年度大会の開催日程、場所
6. 新会長挨拶

* 理事会議事録、決算報告、予算計画は別紙をご参照ください。

1. 第61回大会に参加して

1) 真次一満 会員 (中村学園大学)

天候を気にしつつも、11/30~12/1の2日間に亘って、元号が平成から令和に変わった初の地域漁業学会の大会となりました。初日は雨が降ることもなく、多数の報告発表と意見交換が行われ、翌日のシンポジウムにおいても、大学の存在意義を問う、まさに学際的な発表とコメントのやり取りが行われました。大会が終了するやいなや雨がちらほらと降り始め、少し濡れながらの家路となりました。

さて、大会参加の所感を申し上げる前に、まずは開催地の長崎大学亀田和彦先生、山本尚俊先生並びに同大学の学生の皆様、ご多忙にもかかわらずご準備いただきましたこと、心より感謝申し上げます。また、会長の山下東子先生をはじめ事務局として運営にあたられました山尾政博先生並びに担当理事の皆様におかれましては、当日の進行役の業務遂行、大変お疲れ様でございました。

ところで61回目を迎えた歴史ある本学会ですが、発足は1959年に遡り、中楯興先生が呼びかけられ本学会を立ち上げられたとお伺いしました。私は、以前、地域経済団体に勤めておりましたが、何の因果か、その事務局で中楯先生が所属

される経済学部同窓会のお世話をされて
いました。中楯先生は、同窓会に来られ
る度に「また1年歳をとった」と、つぶ
やきながら乾杯されるお姿を今でも鮮明
に覚えております。

ある日、次のような書物を前職事務所
の書庫で見つけ、全ページコピーをとっ
て今も大事に保管しているものがありま
す。「200 カイリ時代の西日本水産業」

(1979) という報告書で、著者は、中楯
先生をはじめ、当時のご所属で申し上げ
ますと、宮崎大学生田國雄先生、水産大
学校三栖寛先生、鹿児島大学松浦文彦先
生によるものでした。200 カイリ時代を乗
り切るための九州地域による提言書とい
う位置づけで綴られた193 ページから成
る労作です。当時は九州・山口経済連合
会と称していましたが、その濱正雄理
事長が中楯先生をはじめとする「西日本
水産研究会」へ依頼したとの経緯がこの
書物のまえがきに記されています。

これを見ますと、今大会シンポジウム
の起点となった「地方創生・地域貢献の
経験」に他ならず、大学あるいは大学人
は、この当時から地域の課題整理と分析
ならびに政策提言までも引き受けるなど、
地域に欠くことの出来ない存在として、
多大な貢献をしていたことが覗えます。
本学会はまさにこのような存在であり、
大学人が地域に根ざすという視点は、
今も昔も変わらないと言うことを、
この度の参加で強く感じた次第です。改
めまして、こうしたシンポジウムひいて
は大会そのものをご企画頂いたことに厚
く感謝申し上げます。

多くの学会員の皆様にご参加いただ
くだけで、大会はより一層実りあるもの

なります。次回の大会開催を待ち遠しく
思いながら、一報告者としてではありま
すが、次回も是非とも多くの方々からご
意見やご批判をいただきたいと感じた次
第です。

2) 行平真也 会員 (九州産業大学)

令和最初の地域漁業学会大会が、令和
元年11月30日、12月1日に長崎大学水
産学部で開催された。まず、大変お世話
になった会場校である長崎大学水産学部
の皆様にご挨拶申し上げます。

今年から会員となり、今回が初めての
参加であった。参加のきっかけとなった
のは、とある学会の情報交換会の場で本
学会の会員の先生から参加を勧められた
ためである。本学会に興味を持っている
研究者は多いと思うので、ぜひ会員の皆
様についてはまだ大会に参加していない
方々の背中を押していただければ幸いと
考える。やはり、初めての学会というの
はなかなか参加しづらいので、誘って
いただけるとそれだけで行こうという気持
ちになる。

さて、初めて学会に参加した感想とし
て、最も驚いたことは多くの報告者がス
ライドを配布資料として用意していたこ
とが挙げられる。参加者に聞くと、習慣
的に用意しているとのことである。考え
てみれば、本学会の一般報告は3会場
で進行する。同じ時間帯に行われる他の
発表も聞きたいというニーズというのは
当然多くあり、資料を配布することで、
聞けなかった発表についても詳しい情報
が得られることから、それに少しでも応
えることが出来る。また、多くの方々

布資料にメモを取られていた。これは振り返りに極めて重要だと思われた。次回の発表には必ず用意したい（初めて発表される方にもこのことが情報として届くようにと思う）。

一般報告では様々な発表があり、学際性を大切にされている学会の姿勢を感じることが出来た。また、様々な場面において、多くの先生方と交流することが出来、とても有意義な機会となった。

平易な言葉で感想を締めくくると「行ってよかった」という一言に尽きる。誘っていただいた先生には深くお礼申し上げます。今後、漁業を取り巻く状況が変化していく中で、しっかりとそれを考えて行けるように本学会に継続的に参加し、研究を深めていきたい。

2. 学会賞選考結果のお知らせ

学会賞選考委員会委員長 田和正孝

地域漁業学会 2019 年度（第 61 回大会）学会賞が以下のとおり決定したので、ここに報告する。

記

受賞者：増崎勝敏会員

受賞図書：『現代漁業民俗論』 筑波書房
2019 年

受賞理由：

本書は、著者の過去 30 年あまりにわたる地域漁業に関する民俗学的研究の成果をまとめたものである。全 13 章からなる内容には、関連するこれまでの研究を回顧したうえで、大阪湾沿岸地域、高知県中土佐町久礼、福岡県志賀島など西日本各地における継続的な民俗学的調査の成果を問

うている。方法としては、聞き取り調査だけではなく、社会学や地理学の調査手法を十分に理解したうえで、乗船調査による参与観察、仕切書や船員手帳など分析などを試みている。

日本民俗学が対象としてきた「伝統的」な漁業への追究だけにとどまることなく、「現代的」漁業を視野に入れ、そこに見られる諸課題を考察している点を高く評価できる。漁業民俗学の専門書としてだけでなく、漁業に関心をもつ多くの読者に読まれることを大いに期待させる力作である。

3. 新理事・監事の選出

大会の際に開催された理事会・総会において、理事・監事の改選が行われました。新理事によって、山下東子会員が新会長に選出されました。副会長には亀田和彦会員が推薦されました。

新理事・監事一覧

会長 山下東子
副会長 亀田和彦

地域理事 (以下、順不同)

九州部会

波積真理、鹿熊信一郎、佐久間美明、
中村周作、亀田和彦

中四国

板倉信明、磯部作、伊藤康宏

近畿

前潟光弘、増崎勝敏、河原典史、
田和正孝（会計担当）

東海・北陸

常 清秀、東村玲子、
林紀代美（事務局長）

関東部会

橋村修、工藤貴史、玉置泰司、
山下東子（会長）

東北・北海道
古林 英一

以上、地域理事

事務局、各委員会

（○は代表者）

事務局担当

○林紀代美、天野通子、山尾政博、

会計担当

○田和正孝

学会誌編集委員会

○竹ノ内徳人、若林良和、末田智樹、
増崎勝敏、副島久実、波積真理、
吉村健司、前潟光弘、

学会賞選考委員会

○田和正孝、前潟光弘、常 清秀、山尾
政博、竹ノ内徳人、林紀代美、鹿熊
信一郎

監事

近藤信義、米田寛、

（研究企画委員会、国際交流委員会は現
在選考中です）

4. メール登録、会費納入のお願い

（1）会員情報の更新、メール登録をお
願いします。

所属先や住所の変更については、地域
漁業学会のHPから事務局にお知らせくだ
さい。オンラインで処理できます。

メール登録も必ずお願いします。メー
ルを登録していただけますと、会報、学
会の要旨集等をお送りいたします。メー
ルの配信数は多くはいたしませんので、
よろしくお願いいいたします。

（2）第61期会費納入のお願い

第61期、及び未払いの過年度分につい
ても納入をお願いいたします。請求書は
発送いたします。

5. 次期大会の開催日時、開催場所

今年の地域漁業学会の大会は以下の通
り開催する予定です。

開催時期：11月7日（土）～8日（日）

開催場所：下関水産大学校
（国立研究開発法人水産研究・教育
機構）

(新会長挨拶) 過去の蓄積・未来への布石

会長 山下東子

1959年に「西日本漁業経済学会」として発足した当学会は61/62年目に入っています。この間、学術研究の深化・拡大と地球規模でのグローバル化に後押しされ、当学会のモットーである「地域性、学際性、国際性」が持つ意味も発展的に変容してきました。

特に近年は学会大会での一般報告数が安定的に増加し、学会誌において報告論文というジャンルが新設されたこともあり掲載論文数が増え、おかげさまで学会活動は活性化しています。事務局業務と編集業務の一部を外注化したことにより、学会運営を分掌する会員各氏がより専門性を生かした業務に専念できるようになってきたことも、近年の成果として挙げておくべきでしょう。

しかし課題は山積しています。ここでは情報化対応と世代交代の2点を取り上げます。ホームページやメーリングリストの活用という意味では情報化はすでに浸透しているのですが、論文の電子化においては、世間の、また他学会の後塵を拝しています。2019年度総会で論文の電子化に向け検討を開始することが決まりましたので、早ければ2021年に学会誌は従来の紙媒体に加えて電子的刊行が実現するでしょう。問題は過去60年にわたって蓄積された900本余りの論文の扱いです。どこまで遡るか、費用はどうするかなどについて、ぜひ皆さんのお知恵をお貸してください。

こうした新しい課題に機動的に対応するためにも、学会の中核的担い手の若返りが必要です。世代交代を進めることで、入会后日の浅い会員諸氏にもその次の世代交代に向けて心づもりをしてもらえるでしょう。一方、OB・OGとなったわれわれも研究者としては生涯現役を目指し、学会運営については求めに応じて後方支援に回らせてもらう、このような理想像を描いています。

過去の研究蓄積を生かすこと、学会運営を次の世代に託すこと。これらは伝統ある当学会が次の60年を目指すために打っておくべき未来への布石であると考えています。

地域漁業学会 <http://jrfs.org/>

本部事務局 株式会社共立内

〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4 新共立ビル (株)共立 内

(地域漁業学会担当) TEL: 03-3551-9896 FAX: 03-3553-2047

郵便振替: 01750-0-83886

銀行振込: 三菱UFJ銀行 新富町支店 普通 0146078